

1 題材 相手が分かる伝わり方を考えよう

2 本時の指導

(1) 目標

伝えたい内容について、どうすれば伝わりやすくなるかを考えることができる。

(2) 情報活用能力の育成について

「伝える」ための一連の活動を実現するために、どのような組み合わせが必要であり、どのように改善していけば、より意図した活動に近づくかを論理的に考えることで、プログラミング的思考を育むことができるようにする。

(3) 準備

プロジェクト、電子黒板、実物投影機、アンプラグドカード、付箋紙、模造紙、画用紙

(4) 指導過程

時間配分	学習活動	指導上の留意点
5分	1 めあてを知る。	○ 番組を視聴し、「伝え方」が、重要であることを理解させる。
	めあて 相手が分かる伝わり方について、考えを交流し合うことで、自分の考えを深めよう	
15分	2 課題に取り組む。	○ 3・4人グループを作り、伝え手を1人決めるように指示をする。(伝え手以外は、聞き手) ○ 伝え手にアンプラグドカードを配布する。 ○ 伝え手に発表する内容を付箋紙に書かせる。 ○ それ以外の子どもには、模造紙を配布する。 ○ 課題に対する条件を提示する。
15分	(1)発表と聞き取りを行う。	条件 (伝え手)・ 小学1年生でも理解できる言葉しか使ってはいけない。 ・ 身振り手振りを使ってはいけない。 (聞き手) 伝え手や他の聞き手に質問してはいけない。 ○ 伝え手の話を聞いた聞き手は、模造紙に伝わったことを記入させる。
	(2)答え合わせをする。	
5分	3 伝え方について意見交流をする。	○ 付箋紙に書かれている内容を見て、足りなかった情報を付箋紙に書かせる。 ○ 付箋紙を提示するとき、必ずその情報が必要な理由を伝えるようにさせる。
評価事項 伝えたい内容について、どのようにすれば伝わりやすくなるかを、考えることができる。 <div style="text-align: right;">【発言・付箋紙】</div>		
4分	4 伝え方について全体で考えを共有する。	○ 各グループでまとめたものを黒板に掲示し、不正解の子どものワークシートを投影する。 ○ 全ての付箋をもとに、どの順序で伝えるべきであったかを決めて、内容を整理する。 ○ 番組のクリップ動画を活用し、「伝え方」について振り返りをさせる。
1分	5 本時の振り返りをする。	○ 振り返りを基に、次時の課題をつかませる。

※ 斜体…情報活用能力を育成する学習活動